

VIII 編集後記

ずいぶん寒くなりました。あいかわらず世界は平和とは程遠い状況が続いております。アジアはASEANを中心に、持続的な経済発展を模索しており、いまや事実上、日本もアベノミクスを争点にした総選挙の真最中です。今年はインドネシア、タイ、インドなどで政権交代があり、ここ2~3年の間には日本、中国、ミャンマーなど多くの国で政権交代がありました。日本もそうですが、新政権が直面する課題はいずれも深刻です。日本で再び、政権交代が生まれる、世界が注目しています

さて、本年最後のe-Magazine第11号をお届けします。今回も、多様な論考が集まりました。各論文ないしエッセイは読者の皆さんがご自身で読み、感じ、そして疑問があれば、ぜひ執筆者にご質問をいただければ幸いです。そういうことで、私が逐一コメントは差し控えますが、ひとことだけ付け加えさせていただきたいと思いません。

最初に、多くの人に関心を持つ中国の新政権について、日吉秀松助教による講演とそれをまとめた論文を投稿していただきました。習政権は国民の関心が高い、幹部の腐敗・汚職に熱心に取り組み、いまや多くの幹部が自分の周辺に汚職摘発の手が及ぶのではないかと戦々恐々の事態といわれます。先日、アメリカの友人と話したら、アメリカ人も習近平氏には脅威を感じているとのことでした。いまや世界中が脅威を

感じているのかもしれませんが。そうした状況の背景を詳細に論じていただきました。

3本目は勝又先生の「社会的共通資本」から見る中国の環境崩壊ですが、環境汚染に苦しむ中国の現状を脱却するには社会的共通資本が必要なことを指摘されるもので、極めてもつともかと思えます。

4本目は松林氏の体験に基づくエッセイです。これは皆さんにぜひ読んで、面白さを知ってほしいと思います。

5本目は世界の三大商人といわれるアラブ商人、中国商人、インド商人について、三井物産での長年のビジネス経験に基づいて、何回かにまとめて紹介しようという企画です。さすがに経験に基づいた話は面白いな、とつくづく感じる次第です。今回はインドの商人について面白い話を書いたいただきましたので、とくにご堪能ください。今後も続けて書いていただけるようなので、楽しみです。

今回の「ニュースの裏を読む」は主に10月から11月にかけて、中国の北京で開催されたTPPとAPECの会議や、ミャンマーの首都ネピドーで開催された東アジア首脳会議、さらにはオーストラリアのブリスベンで開催されたG20など、次々と国際会議が開かれました。これらの会議と並んで多くの地域統合構想が提起されています。それらをすべて紹介することは難しいことです。そこで、アジア太平洋での地域統合の動きについてASEANを中心に現状を紹介し

たものです。現在、東アジアでの地域統合や地域協力構想はほとんどが近日中に合意に至るかどうかが不明です。そこでは純粋に経済的な問題が政治的に利用されているようにも感じます。特に、アジアの盟主を巡って米中が激しくぶつかり合い、さらにそれに各国の思惑が絡んでいることは間違いないことでしょう。さらに政治色をのぞいてみても、当然のことながら、緩やかな話し合いの場と言いながら、合意に至るのは難しいことですが、TPPのように統合のルールが厳格になればなるほど、合意に至るのは容易なことではありません。そこで、「ニュースの裏を読む」で、紙数の関係もあるため、こうした問題を詳細に論じることは無理と

いうものでしょう。そのため、地域統合や地域協力の問題の現状を見ながら、ASEANの動きを紹介するのが、今回の「ニュースの裏を読む」の基本的なテーマとなっています。

最後は岸先生による中国の苦悩する農村と都市の格差を埋めるために、農村金融の主角を演じている農村信用社を取り上げるものです。金融システムは農業投資と生産性、そして生活水準向上を促進するうえで、重要な役割を果たしているからです。ちょっと専門的ですが、読んでいただければ、いかに重要な問題を扱っているかが理解されることでしょう。(朽木)